

事業概要

【目的(取組の背景)】

地域交通の厳しい経営環境を背景にした公共交通崩壊への深刻な懸念を踏まえ、「地域交通のリ・デザイン」の考え方に基づく官民・交通事業者の共創により、九州で一体となったMaaS施策を戦略的に立案するとともに、九州MaaSの普及・拡大を通じて、公共交通の利便性向上と利用促進、ひいては九州地域の経済発展に貢献する。

【目指す成果】

九州が一体となって住民や観光客等の移動円滑化や異分野との連携を通じた移動需要の創出に取り組み、「公共交通の利用促進」「多極交流の実現」「九州観光の振興」を達成するとともに、「ナレッジの共有」「人材の育成」「スケール化によるコスト効率の追求」「ステークホルダーとの交渉力強化」を目指す。

【主な取組】

○以下の各項目に関する機能・施策の実現に向けた官民共創による取組

- (1) 公共交通の利用促進、(2) 情報発信、
- (3) 移動環境の整備、(4) 地域消費の拡大、
- (5) 他分野等との連携等

○ 2027年度までは官民連携のスタートアップ期間と位置づけ、九州MaaSの社会実装を推進

○ 2027年度に取り組み内容の検証・評価を行い、グランドデザインに掲げる2030年度のあるべき姿を目指して、継続して公共交通の利用促進と効率的で持続可能な交通モードの実現に向けた取組を推進

概算経費

243,000千円／年(2026年度予算案)

各団体負担の考え方等

官民負担割合=1:1  
(九州MaaS協議会の審議により決定)

実施期間

令和7年6月～令和12年3月

事業スキーム

【推進体制】

(一社)九州MaaS協議会(2024年4月設立)

【事業の進め方】

- ・同協議会においては、実効性のある取り組みを推進するため、各県・事業者の実務者により構成される6WGを設置。事業に係る事項等を審議する運営委員会を経て、議決機関となる理事会、総会にて決定する。
- ・各県に設置されているMaaS実行委員会等とも連携した取組を推進。
- ・九州地域戦略会議へ適宜報告し、意見聴取を行う。

KPI(重要業績評価指標)

- ・協議会では、利用促進、持続可能な交通の構築に関する多岐に渡る事業を実施する。従って、単一の指標ではなく、アプリ利活用関連、交通結節強化、交通空白の解消等、様々な評価指標で事業評価を行う。(詳細は次項)

(目標(R10.3)の代表例)

- ・ 移動環境整備 3案件実施(累計)
- ・ デジタルチケット販売 5万枚/月
- ・ 県境またぎ・移動目的と連携した商品設定 21券種(累計)

# 目標達成に向けたロードマップ

九州MaaSPJ		R7	R8	R9	R10	R11	
KPI		年次目標				最終目標	
主な取組	公共交通の利用促進 ・ ボードレス交通の実現 ・ 観光施設連携 ・ 効率的な運用 ・ オンラインサービス提供	各年次事業計画に沿った機能実装の推進			スタートアップ期間における取組のトレースと次期中期事業計画の策定	次期計画に基づく取り組みの推進	※R9に設定する次期中期事業計画による
		商品の新規設定・データ利活用による見直し等による利用拡大					
		4.3万枚/月	4.6万枚/月	5万枚/月			
	情報発信 ・ サービスの周知 ・ リアルタイム情報の発信 ・ 利用者の目的・嗜好に応じたサービス・情報提供 ・ バリアフリー等情報の提供	各年次事業計画に沿った機能実装の推進とプロモーションの実施				次期計画に基づく取り組みの推進	※R9に設定する次期中期事業計画による
		本項は数値目標を伴う実施項目ではない					
移動環境整備 ・ 乗り継ぎ利便性の向上 ・ 初訪問者でもわかりやすい移動環境の整備 ・ 移動手段確保に向けた検討	モデルケース実施	取り組みの拡大			次期計画に基づく取り組みの推進	※R9に設定する次期中期事業計画による	
	第1号案件実施	第2号案件実施	第3号案件実施				
地域消費の拡大 ・ 広域の交流人口活性化、消費単価向上に資するサービスの検討	県境またぎ・移動目的と連携した商品設定とAKPの販促の実施			次期計画に基づく取り組みの推進	※R9に設定する次期中期事業計画による		
	7券種/年	7券種/年	7券種/年				
多分野との連携 ・ データ利活用の推進 ・ 中山間地等交通空白地域での取り組み	情報共有・パイロット事業の実施等、技術革新等の情勢に応じた取組を推進			次期計画に基づく取り組みの推進	※R9に設定する次期中期事業計画による		
	AIオンデマンドや自動運転などの導入事例を全県で実施						
		4件	3件				